

巨乳な幼馴染娘とイチャラブセックス♡

DOJIN
R18
成人向け
18歳未満の
購入・閲覧禁止

ゲーム好きな幼馴染と賭け事勝負

～勝っても負けてもイチャエロ確定!!～

基本CG 17 枚 差分 203 枚 総枚数 402 枚

あらすじ

私（貴方）はごくごく普通の学生である

日々勉強や部活、アルバイト等に励んでいるので、体は当然疲れている
だから休日の朝は惰眠を貪り、一二度寝をしつつ優雅に過ごす事が望ましい

「ピンポン、ピンポン、ピピピッ、ピンポーン！」

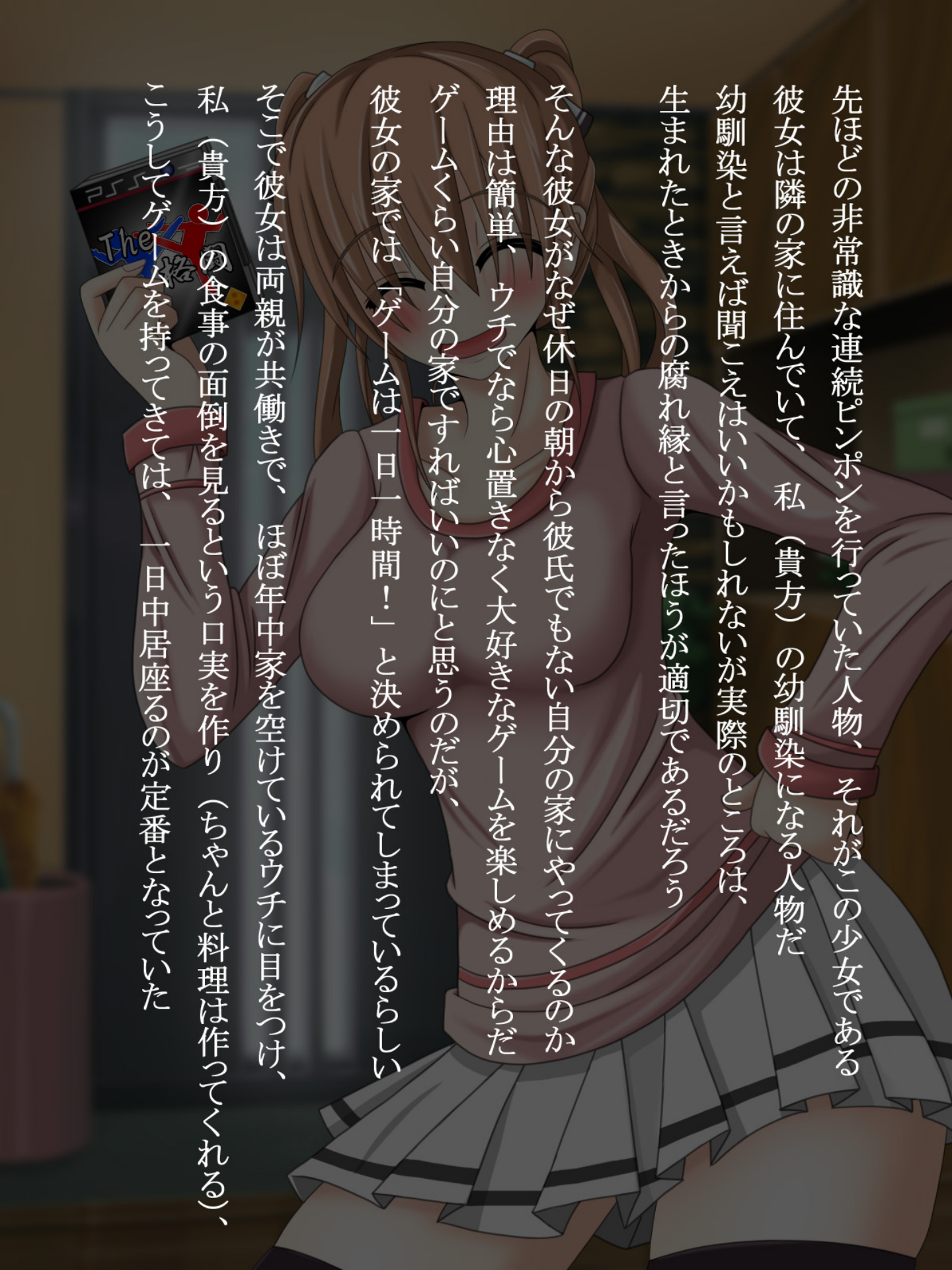
しかしそんな戦士の休息を無情にも引き裂くべくインターホンが連続で鳴り響く
休日のそれも朝っぱらからこんな非常識な行動をする相手は一人しかいない
私（貴方）は深いため息を吐きつつ、重い足取りで玄関へとむかう……

やほゝおはよ、なかなか出てこないんだもん、待ちくたびれちゃった
え、起きたばかりなの？ だめだめねえ、休みの日だからって
ダラダラしてたらもったいないって……そんなアンタの為に、
ジヤーン、新作ゲームを持ってきてあげました♪



ヤレヤレ

(; ^ - ω -)



先ほどの非常識な連続。ピンポンを行っていた人物、それがこの少女である
彼女は隣の家に住んでいて、私（貴方）の幼馴染になる人物だ
幼馴染と言えは聞こえはいいかもしれないが実際のところは、
生まれたときからの腐れ縁と言ったほうが適切であるだろう

そんな彼女がなぜ休日の朝から彼氏でもない自分の家にやってくるのか
理由は簡単、ウチでなら心置きなく大好きなゲームを楽しめるからだ
ゲームくらい自分の家ですればいいのにと思うのだが、

彼女の家では「ゲームは一日一時間！」と決められてしまっているらしい
そこで彼女は両親が共働きで、ほぼ年中家を空けているウチに目をつけ、
私（貴方）の食事の面倒を見るという口実を作り（ちゃんと料理は作ってくれる）、
こうしてゲームを持ってきては、一日中居座るのが定番となっていた

楽しみにしてたんだよね、これ前作凄くやり応えあったからさ、
そんで一番の目玉が対戦モードの充実なのよ！
新キャラとか新しい技やコンボも増えたって話でさ、あ、早く遊びたいっ！
ねね、アンタもそう思うでしょう？



イヤイヤヤ

(; 皿)

え〜何その嫌そうな表情は〜？
アンタだって前作、結構夢中になって遊んでたじゃん
せつかく今日の夕食はアンタが好きなハンバーグ、
作ってあげようと思ってたのになあ……あっ、わかった！



ハンバーグッ!
(* ° Д °)

#マイアミ

アンタ、前作で私にコテンパンにやられたこと、まだ根に持ってるんでしょ？
しょうがない男なんだからさ、仕方ないじゃない、私天才ゲーマーなんだから
ふふっん、負け犬の遠吠えね、勝敗は私のほうが上なのは事実なんだし♪



イラツ☆
(#^ω^)

お、なんですか？ 天才ゲーマーである私に挑戦します？
賭け？ いいよお、受けてたちましよう♪
負けたら一つ、なんでも言う事聞いてあげましよう♪
もちろん私が勝ったらなんでも言う事聞きなさいよね？

フッ
フッ
フッ
フッ
フッ



ヤッテヤンヨ
(;´・ω・)

あ、もう結果出たも同然だろうから、私の希望先に言うね
このゲームのDLCで買える衣装と武器、合わせて一人六百元
とりあえず主要キャラは十八人いるからそれ全員分買って欲しいんだよねえ
えっと、六百×十八だから……ブツブツ



10,800 円……

(;・ω・)

まさか今更怖気づいたなんて言わないよね？

賭けの話はアンタが言い出したことなんだし……うんうん、よろしい
ええ、もし私に勝てたら何でも言う」ときいてあげるわよ！



やってやる、
やってやるぞお！

(´ ; ω ;)

ぐぬぬ、まさか私が負けるだなんて……

全部あの新システムが悪いのよっ！

何よあれ、あんなのイカサマよ、イカサマツッ！



うっっ

でもそんなことより、アンタの命令が一番わけ分かんないっ！

「。パンツ見せろ」って一体なんなのよっ！

わけわかんないってばっ、当然でしよっ！

だって、いっ、いきなり私のパンツ見たい……だなんて……

「三食ハンバーグにしろ」とか「前に借りた五百円チャラにしろ」とか、
そんな感じの命令だと思ってたのに……



ギョッ
ギョッ

（今までそんなそぶり一切見せなかつたくせに、急にそんなこと言われても
で、でも考えようによってはチャンス……なのかな？）

朴念仁のヨイツのほうからアクションを起こしてきたんだから……（ブツブツ）

はあ？ 冗談のつもりだったですって！

「私が思いのほか真剣に悩んでるからかわいそうになった」って、アンタねえっ！
冗談にしても言っていないのと悪いのがあるでしょ！

んやっ

そっ、それに私別に真剣に悩んでなんかいないし、超余裕でしたし！

今更アンタに下着見られたって別にどうってことないんだから！

本当だってば、よく見ておきなさい、アンタの命令に従ってあげるわっ！



ほっほら、これくらい……ぜ、全然なんともないし……

賭けに負けたんだから、し、仕方ないし……

へっ、平気よ、アンタに見られたって、減るもんじゃないし



（どうしよう、どうしよう、どうしよう……）

ま、まさかこんなことになるなんて思ってもみなかったから、

全然可愛くない普通の下着だよお……嫌われたらどうしよおおおっ

ブルッ

(ちよつ、ええっ！まさかのガン見されちゃってるっ
そんな食い入るように見られるなんて、恥ずかしい
ってか、なんか目がヤバイっ、凄くギラギラしてて……)

カマアツ
ドキッ

ドキッ

(そ、そんなにジロジロ見ないでよおっ……ん？)

えっええ！な、なんかズボンの股間部分が、ふっ、膨らんでるっ！

あれって……勃起してるってこと？わ、私の下着姿を見たせいで？)



も、もういいでしょう？ はい、お、おしまいねっ

ちやっ、ちゃんと命令は聞いてあげたんだから……い、いいでしょ

あのっ、わ、悪いんだけどちよっと用事を思い出したから、今日、もう帰るね

はあっ

キキッ

はっ

キキッ

ぎゅっ

（顔が熱い、胸がドキドキするっ……アイツの股間、まだ勃起してる

わ、私の下着見て興奮したんだ……私に、興奮……

帰ろう、一旦帰って頭を冷やさないと……うう、恥ずかしい）



頬を紅く染めた彼女はそのままいそいそと自分の家に戻っていった

私（貴方）はその様子をただボーッと眺めているだけだった

気の利いた言葉の一つでもかけられればよかったのだが、そんな余裕は一切なかった
生まれた時からの腐れ縁、彼女の下着姿を見たことはこれまで何度もあった
一緒にお風呂に入ったこともあるし、同じ布団で眠ったこともあった

しかしそれはあくまで子供の頃の話である

お互い成長し、体つきは変わり、一時は抜かされていた身長も逆転し、
私（貴方）は男に、彼女は女に成長していたのだ

幼馴染の下着姿を見て凄く興奮した自分を否定しようがなかった

彼女が自分の家に戻ったのを確認したあと、急いで玄関に鍵をかけ、
痛いほどに勃起しているペ○スを取り出し、一気に扱いた

先ほどの光景を思い出し、一心不乱に擦ると、あつという間に射精をした
自分でも驚くほど長く、そして物凄い量の精液がドクドクと溢れ出た

この日、初めて私（貴方）は彼女を一人の女として意識した……

ちなみに、夕食はカップラーメンを一人で寂しく食べた（涙）

一晚経って冷静になると、とんでもないことをしてしまったと後悔しはじめた
彼女が家に帰っておばさんたちに告げ口するのではないか、

もしそうだったら自分はどうなってしまうのか……徐々に血の気が引いてきた

「ピンポーン」

突如鳴るチャイムに恐る恐る玄関のドアを開けると、そこには幼馴染の姿があつた
彼女は最初に昨日の夕食を作れなかつたことを再度詫びると、

いつもの調子でゲーム片手に上がりこんできた……

その普段と変わらない素振りに一瞬昨日のことは夢だつたのではないかと思つたが、
彼女の一言でやはり全て現実であつたことだと確信する

「昨日のリベンジしてもいい？ 勝つた時の命令は……お互い、昨日のまままで」

彼女が何を考えているのか理解できなかつたが、またゲームに勝てば下着姿を見れる
そう考えると。ペ○スはすぐに勃起した……それを気取られぬよう彼女の隣に座る
耳まで真っ赤に染まつた彼女は震える指で、ゲームのスイッチを……入れた

う、うん……また、私の負け……だねっ

や、やっぱりあの新システムは、ひ、卑怯だよ……

うん……アンタの命令、ちゃんと、従う……よ

キキッ
キキッ

ワッ
ワッ

（もう「」まできたら後には引けない！ 自分から再戦挑んで、わざと負けて……

大丈夫、昨日コイツは私の下着姿見て勃起したんだもん

す、少なくとも嫌われてはいないはず……うん、大丈夫）

どどお……「う、これでいい……かな？」

んっ、ま、負けちゃったんだから、し、仕方ないよね、んうっ

う、うん、しよ、しょうがないよ……ねっ

モジ
モジ

ぴゅ

キキ
キキ



「これはその……昨日の下着は、た、たまたまちょっと油断してただけで、
いつもは、「う、うううの穿いてるのよ、お、女の嗜みよ、嗜み！
べ、別にアンタのために穿いたわけじゃないんだから、ほっ、本当よ！」

「ちょっと前に友達と一緒に勢いで買った紐パン……」

「可愛いけど恥ずかしくて全然穿けなかったやつだけど、
こ、これなら昨日のよりは喜んでくれる……よね」

↓ 理性の糸 ↓

プツッ

え？ もう我慢できないって？ 何を言ってる……ちよっ、ちよっちよっちよっ！

何をいきなり出しててるのよ、アンタはっ！

まっ

っ

っ

ちよっ

ポロ



ちよつ、ええつ、ほ、本当に、な、何してるのよお
し、信じらんない、おつ、オナニーしてる……のよね？

(凄い、昔見た時と形も大きさも全然違う……
あんなに大きいのをゴソゴソ擦ってる、ああっ)

んっ

キキキ
キキキ

んっ
んっ



え？ 昨日も私が帰った後、すぐ……おっ、オナニーしたの？

わ、私の昨日の姿をオカズに？ って、そんなこと報告しなくていいからっ

なんなのよお、もおくばかあゝ

ひゅっ

うゅっ

ぎゅっ

びゅっ

びゅっ





あ……あの、私のこと、お、オカズにしてたってことは、その……

せつ性の対象としてじゃなきゃ、そういうこととしないって本に書いてあったし、

一人の女性として、そのく、私のことを見る………というか、なんというか

テレ
テレッ

モジ
モジッ

ジフッ

ゴム

ゴム

ゴム



い、いやっ、別に違うからね、そんな、アンタとこのまま最後までとか

そんなこと考えてないし！ えっ、濡れて……、「こ、これも違うし！ 汗だしっ！

はあっ、今度は何？ え？ イク？ 出そう？ ちよっ、それって、あの、そのっ

ちよっ

まっ

ズクッ
ズクッ

ズクッ
ズクッ

ひやあつ、ちよつ、熱つ、やああつ

ちよつと、アంతつ、何して……ああんつ

あつ

やつ

セクッ

セクッ

キョリッ

キョリッ

キョリッ

キョリッ



もお、ばかあ、しっ、信じられないっ

「、こんな……んっ、熱くて、ヌメヌメしてるし……」

え？ 昨日より、たくさん出た？ しっ、知らないわよそんなことっ！

はあ

はあ

ドキ
ドキッ

ドロ
ドロッ

（おへその辺、凄く熱い……コイツの、せう精液なんだ

ちよつと生臭いけど、そ、そんなに嫌いじゃ……ない、かな

ペ〇スまだビクビクしてる、男の人のイクってこういうことなんだ）

ヒクッ

ヒクッ

こ、今回は……たまたま連敗しちゃったけど、次は負けないからねっ！
次も賭け、もちろんやるわよ！勝ち逃げなんて許さないから！

……と、とりあえず、ソレはやくしまつて！あと風呂借りるからねっ！

はあ

はあ

キキ

キキ

トロキ

ソレ



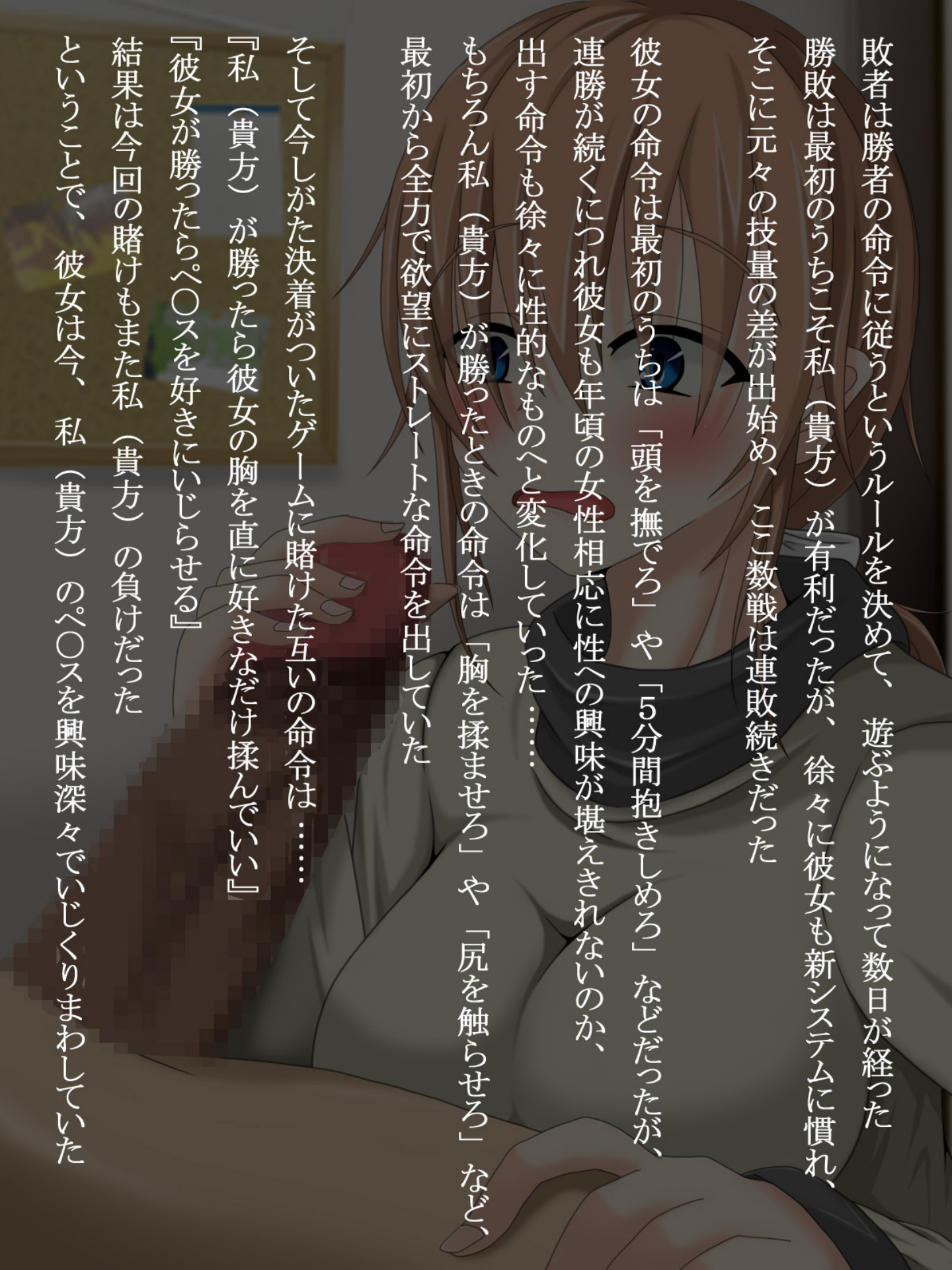
こ、今回は……たまたま連敗しちゃったけど、次は負けないからねっ！
次も賭け、もちろんやるわよ！勝ち逃げなんて許さないから！

……と、とりあえず、ソレはやくしまつて！あとお風呂借りるからねっ！



こうして幼馴染とのエッチな賭け事勝負をする日々が始まった……
ちなみにこの後、お風呂から出た彼女は上機嫌でゲームを再開し、
夕食のハンバーグもいつもより多めに、鼻歌交じりで作ってくれた





敗者は勝者の命令に従うというルールを決めて、遊ぶようになって数日が経った
勝敗は最初のうちこそ私（貴方）が有利だったが、徐々に彼女も新システムに慣れ、
そこに元々の技量の差が出始め、ここ数戦は連敗続きだった

彼女の命令は最初のうちは「頭を撫でろ」や「5分間抱きしめろ」などだったが、
連勝が続くにつれ彼女も年頃の女性相応に性への興味が堪えきれないのか、
出す命令も徐々に性的なものへと変化していった……
もちろん私（貴方）が勝ったときの命令は「胸を揉ませろ」や「尻を触らせろ」など、
最初から全力で欲望にストレートな命令を出していた

そして今しがた決着がついたゲームに賭けた互いの命令は……

『私（貴方）が勝ったら彼女の胸を直に好きなだけ揉んでいい』

『彼女が勝ったらペ○スを好きにいじらせる』

結果は今回の賭けもまた私（貴方）の負けだった

ということ、彼女は今、私（貴方）のペ○スを興味深々でいじくりまわしていた

うわあ、本当にカチカチだねえ、それに凄く熱い……ひやあ、不思議な形……子供の頃見たのとはやっぱり全然違うねっ

先っぽなんて凄く真っ赤で……ここはなんで、でっばってるのかなあ？

さわ

さわ

なぜ
なぜ



きゃっ、ピクッって……あ、「めんっ、
いっ痛かった？

「めん、む、夢中になっちゃって……え？ 違う？

痛かったわけじゃないの？ 本当に？ よかったあ

あっ

ピクッ

ピクッ



気持ちいいとびくって動いちゃうのね、なるほど……

へえ、**「ニ」**、カリ首っていうんだ、**「ニ」**を触られたからビクッとしたのね

あ、本当だ、優しく撫でたらヒクヒク動いてる……ふふっ、面白い♪

さあ

さあ

ビクッ

ビクッ



え？手で……しじいて欲しいって？

それって確かあなたが……オッ、オナニーしてたときの動き、よね？

い、いいけど……やり方教えてもらわないと……わからないわ



全体を軽く握って……上下に動かす……うわっ、結構皮伸びるのねっ

んしょ、んしょ、ど、どう？ え？ カリ首のところを重点的に？

う、うん、わかった、やってみる……んっんっんっ

んっ

はあっ

しゅっ

しゅっ



ど、どおかなあ？ ちゃんどできてる？

ええ、もつと強く乱暴にしても？ 本当に平気なの？

うう、そう言ってもまだ慣れないし、力加減が難しいよ

うーっ

シク

シク



えっ、ええ？こ、今度は舐めて欲しいって……こ、これを？
う、うん、本とか、友達の話とかで知ってはいるけど……
勝負に勝ったの私なのに、なんか立場逆転してない？

もーっ

キキ♡
キキ♡



し、仕方なくだからね……アツ、アンタがどうしてもって言うから……
ほ、本当は「こんなこと……し、したく……ないけど
と、特別だからねっ！ かつ、感謝しなさいよう！

キキッ
キキッ
♡

フフッ
フフッ
♡



「こ、こ」を……な、舐めればいいのよね？

（うわっ、間近で見ると……まだ怖い、それにちよつと臭う……）

い、いまさら引き返せない……女は度胸だっておばあちゃんも言ってたもんね）

ドキ
ドキ
ドキ

うん



んっ……ペロッ、ペロペロ……ちゅっ

（うわっ、ちよっと……しよっぱい？うう、なんか変な感触かも

で、でもコイツのためにも、がんばらないと！

……ってなんで勝負に勝った私が、がんばらないといけないのよっ！）

はあっ

ペロッ
ペロッ

んっ

ピク
ピク



れるっ……んっ、ペロペロ、はあっ

ど、どうかなあ……今度は、ちゅっ、ちやんと、できてる？

だ、大丈夫？ なんか苦しそうだけど……え？

き、気持ち……よすぎる？ あ、そ、そうなんだ……

んっ

レロキッ

ペロキッ

はあっ

キッ

キッ



ふふっ、そ、そなんだ……ペロペロッ、気持ち、いいんだっ、ちゅっ♡

(舐めてくうちに味も臭いもなくなってきた……これなら続けられそうかな

あっ……ふふっ、今のゴイツの声、『んあっ』だって、そんなに気持ちいいんだ

情けない顔しちゃって……可愛い……なんかこれ、はまりそうかも♡)

んっ

ビロビロッ♡

はっ

ビクッ

ビクッ



ねえ、アンタに舐められると……ぺろっ、気持ちよかったりするでしょう？
ふふ、やっぱりね、私はなんでも飲み込みが早いからうちゅっ♡
いいのよ、もっと情けない声出しちゃっても、クスクスッ

はぁっ

♡
♡
♡
♡
♡

♡
♡
♡
♡

クッ

クッ

クッ
クッ
クッ
クッ
クッ
クッ
クッ



んちゅっ、しりしりっ、……みみっ、さっきからビクビクしっぱなしね♡

そんなに私にペロペロされて、気持ちいい〜んだ、クスクスッ

ちゅっ、あむっ……え？イク？えっえ、ちよっ、そんな、急にっ

はふっ

しりしり

んっ

くっ

くっ

くっ





やあっ

あっ

きやっ、ちよつと、待ってっで、あっああっ
だめっ、熱っ……あっああっ
わっ、

クッ

ジュ
ジュ
ジュ

クッ

クッ

もお、危うく目に入っちゃうところだったじゃない、気をつけてよね！
ああ、髪についちちゃってるぅ……これは洗わないと駄目ねえ

もう、イキそうならもっと早く言つてよ……それにしても、凄い臭い……

はぁっ

はぁ

ゼクッ
ゼクッ

ククッ



んちゅ、ペロッ……うわっ、なにこれ、マズッ!

んっ、苦いし、喉にひっかかって……うん、精液ってこんな味なの?

慣れるかなあ……これじゃあ全部飲んであげるのは当分無理そう……はっ!

マズッ

ドロッ

うわっ



ちっ……ちちちっ、
違うからね!

別にアンタの精液全部飲んであげたいなとか全然思っていないし!
か、勘違いしないでよね! ねえ、ちよつと聞いているの!

ウ
ガ
ッ

ぎ
ゃ
う
う
う

!?!?



ちっ……ちちちっ、
違うからね!

別にアンタの精液全部飲んであげたいなとか全然思っていないし!
か、勘違いしないでよね! ねえ、ちよつと聞いてるの!

ウ
ガ
ッ

ぎゅ
う
う
う
う

危うく大切な息子をへし折られる寸前で事なきを得た私（貴方）は
次こそ勝負に勝つと堅く心に誓い、ゲームの特訓をすることにした

!?!?